

## サーチライト With Pastor Jon 創世記 7 章 パート 2

.....

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

---

**「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7**

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

ですから、皆さん、元気を出しなさい。私は神を信じています。

私に語られたことは、そのとおりになるのです。(使徒 27:25)

嵐は続きました。

船の中でパウロの言葉を聞いた内の幾人かは「それはどうかな?」と言って、小舟で逃げ出そうと試みます。

船員たちは「囚人は死んでも構わない。兵士たちも沈んでしまえ。だが俺たちは、自分の力で自分を守る。」と考えて、船を捨てようとしていました。

ところが、水夫たちが船から逃げ出そうとして、船首から錨を降ろすように見せかけ、小舟を海に降ろしていたので、パウロは百人隊長や兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助かりません」と言った。

(使徒 27:30-31)

ここは、救いと保証について非常に重要な箇所なので、アンダーラインを引いて下さい。

パウロは言います。「主は御使いを通して、『この嵐でも全員が助かって、みんなローマに到着する。』と言われました。ただし、船の中に留まり続ける限りに於いて。」

「もし船から逃げ出すことを選ぶなら、あなたは流されて、ローマへは行けない。」

つまり、船に留まっている限りは、戸は閉められ封印されて、あなたの安全は保証されています。

でも、逃げ出すことを選ぶなら、自分の思いを優先し、やりたいように行動するなら、自分の船で漕ぎ出ることを選ぶなら、あなたのことは保証できません。

**「わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。**

**だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。」(ヨハネ 10:29)**

とイエスが言ったように、あなたの救いを奪うことは、誰にもできません。

ただ…主は、「離れ去ることを選ぶ人も留める。」とは言っていない。

私にも詳しいこと全ては分かりませんが、確かなのは、ノアと家族が救いの船の中のように、私も封印され、確実に

救われ、保証されているということ。主に感謝します。

なぜなら、船を離れるつもりはないから。

小舟で漕ぎ出して行こう、離れ去ろうとは思わないから。

他のどこにも行くつもりはないから。

「主よ、私はあなたから離れません。私と家族を中に入れて戸を閉じ、救って下さってありがとうございます。他の所に向かって行こうなんて、絶対に思いません。」

勿論、罪を犯してしまうことも、失敗する時もあります。

それでも、私は命の日の限り主を愛すると決心し、宣言しました。

主を信じ、主に感謝して、全てを献げる。あなたもそうでしょ？

それでも理解すべきは、「みんな、大丈夫です！ だけど、ここを離れ去るなら死ぬでしょう。どんな嵐が来ようとも船に留まりなさい。そうすれば、あの栄光輝く日には目的地に着きます。」

ということで、主がノアと家族を舟の中に閉じ込めた全ての出来事を通して、使徒 27 章は救いの全体像を分かり易く表現し、より深い理解を与えてくれていると思います。

「ジョン、あなたは永遠に保証されているのか？」

はい。されています。あなたもそうだと良いけれど。

「主よ、私は地獄に行く気なんか毛頭ありません。」「自らの邪悪さの中に進んで入り込もうなんて思いません。」という限りは絶対に大丈夫。

しかし！ あなたが「降りる」と決めたのなら、神は止めません。

「離れる」と決心したなら、神は留まるようにとは強制しません。

ただ、パウロがしたように警告を与えます。「あなたは死ぬ。」

さて、本文に戻りましょう。

**主は彼のうしろの戸を閉ざされた。(創世記 7:16)**

これで箱舟の中は安全が保証されました。

大洪水は四十日間、地の上にあった。水かさが増して箱舟を押し上げたので、それは地から浮き上がった。水がみなぎり、地の上に大いに増し、箱舟は水面を漂った。

水は地の上にありますみなぎり、天の下にある高い山々もすべておおわれた。

水は、その上さらに十五キュビト増し加わり、山々はおおわれた。

こうして、地の上を動き回るすべての肉なるものは、鳥も家畜も獣も地に群がるすべてのものも、またすべての人も死に絶えた。

いのちの息を吹き込まれたもので、乾いた地の上にいたものは、みな死んだ。

こうして、主は地の上の生けるものすべてを、人をはじめ、動物、這うもの、空の鳥に至るまで消し去られた。

それらは地から消し去られ、ただノアと、彼とともに箱舟にいたものたちだけが残った。水は百五十日間、地の上に増し続けた。(創世記 7:17-24)

水かさは更に 15 キュビト (約 7m) 増して、一番高い山を覆ってしまいました。

ところで洪水について語る時、ある人々は「これは世界的な規模ではない」と言い、記者やコメンテーターの中には「これは、ある地域の一部分で起こったことだ」と信じている人もいます。

でも、その見方には大きな問題があるのです。

これが地域的な洪水だとしたら、神は、

どうして、ノアたちを別の地域に行かせなかったのか？

どうして、わざわざ箱舟建設に 100 年もの年数を費やしたのか？

どうして、世界中から動物たちをつがいで集めたのか？

これが地域的な洪水なら、神はきっと、「ノア、これからここで洪水が起こるから、家族と一緒に荷造りをして別の場所に行きなさい。」と言ったでしょう。

全く、つじつまが合いません。

聖書には「水が山々を覆った」と書かれています。もしこれが地域的な洪水なら、これらの水はどこへ行くのですか？

その地域で水が山々の上までであるのなら、明らかに頂きから流れ下るか、山自体が吸収してしまうでしょう。

けれど、山々の上まで水があった。

従って、論理的に明らかに、世界的な洪水であったことが分かります。

事実、世界中どこでも、民話や昔話、伝承などに洪水の話があるのはなぜですか？

それは過去に、地球全体が大洪水で覆われたことがあったからです。

そうでなかったら、魚や貝、低地に住む動物の化石が、ヒマラヤ山脈の氷の地層の中に大量に発見されているのをどう説明するのですか？

高山にいるはずのない動物たちがそこで化石で見つまっているのを、最も上手く、簡単に説明するには、まさに聖書は真実だということを知ることに。

聖書を信じれば、色んなことがとてもシンプルに見えてくるのです。

(創世記 1 章②、6 章②参照)

全てを科学的に見るとするならば…以前も言いましたが、この間の日曜日 (1997 年) の **Medford Mail Tribune** 紙の第一面。皆さん、読みましたか？

「科学界を揺るがす大発見！ - - - オレゴン州立大学科学部が確認」

それ自体がミラクルですけど。

「オレゴン州立大学科学部は、この度、“鳥は恐竜から進化したのではない”ということを経験的に証明し、科学界はその立場を受け入れた。」

はあっ!?

科学…彼らはもう、次から次へとばかげて歪んだ見解を打ち立て、人々は「鳥は恐竜から進化した」というのを鵜呑みにし、そして今度は「大発見！鳥は恐竜から進化したのではない」!?

私は彼らにそのことを話すべきでした。

そうしたら、何十億にも及ぶ研究費を節約できたのに。本当に愚かなことです。

聖書が色々な面でいわゆる“科学”と言っていることは、まさに聖書を信じることに。

ただ単純に聖書を信じるなら、科学的にも絶対に恥をみることはないのです。

科学は、遅かれ早かれ、聖書の方向に向かうのだから。(創世記 1 章①参照)

ところで、進化論に興味がある人たち。

進化論はまさしく今、とてつもなく大きな変革が起きていて、崩壊し始めていますよ。

何年か前にベルリンの壁が崩されて共産主義が崩壊し、世界中が驚きましたが、それと同じくらいの大きな影響のある変

化を、今日科学的に見ています。

現在科学界では、進化論の壁に巨大な亀裂が入っていて、科学者たちは離れ去っているのです。

是非、フィリップ・ジョンソン (Phillip E. Johnson 1940-) の本を読んで下さい。

タイトルは「Darwin on Trial」(裁かれるダーウィン)

彼は、考えを言葉できちんと表現できる法律家、サイエンス・ジャーナリストで、面白いライターです。

今夜、こんなことを言うつもりはなかったのだけど、長年みことばを教えてきて、進化論が内側から疑問視され始めたという、こんな時代は初めてで、本当に嬉しくなります。

それも、創造論を信じるクリスチャンからではなく、創造論を信じる科学者からでもなく、科学界で長年進化論を信じ、関わってきた科学者たちの中で何か新しいことが起こり、進化論自体が内側から崩れ始めているのです。

興味があるなら是非、彼の著書を読んで下さい。

「Darwin on Trial」(裁かれるダーウィン；日本語訳はありません) 又は 「Darwin's black box」(日本語版；ダーウィンのブラックボックスー生命像への新しい挑戦；出版社-青土社)

彼は宗教的な創造論者ではありませんが、とても素晴らしい着想で、他にもたくさんの書物や記事が出ていて、進化論に共産主義の崩壊のようなことが起こっています。

とても嬉しいですね。

さて、先週、オレゴン州立大学は「鳥は恐竜から進化したのではない」と知らせてくれたけど、彼らには他にも研究すべきことがまだまだありますよ。

たとえば、“パンダは、本当はアライグマだ ”

到底受け入れられません！ パンダがアライグマ!? 本当に信じられますか？

彼らには、調べるものがたくさんありますね。

それはさておき、洪水の話に戻しましょう。

この洪水が地域的なものだとする考え方は、文化的にも理論的にも、化石などを研究する古生物学に於いても、全くつじつまが合いません。

何より、明らかに聖書の内容と相反します。

**当時の世界は水におおわれて滅びました。しかし、今ある天と地は、同じみことばによって、火で焼かれるために取っ  
ておかれ (II ペテロ 3:6-7)**

なので、これが地域的な洪水なら、終わりの日に火で焼かれるのも地域的な火事だということになります。

それは違う。そうではありません。

**水は百五十日間、地の上に増し続けた。(創世記 7:24)**

40 日 40 夜、雨が降り続き、水は増え続けました。

その理由を覚えていますか？

水は上にある空からだけではなく、地が裂けて開かれたために、地下深くからも湧き上がってきたのです。

つまり、水が空からも地面からも湧いたので、全世界が水に覆われたということです。

ここでちょっと、实际的に考えてみましょう。

箱舟の中のノアは 190 日前に、「さあ、乗りなさい」と言う神のことばを直接はつきりと聞きました。

**「あなたとあなたの全家は、箱舟に入りなさい。」(創世記 7:1)**

それから神は戸を閉じましたね。

そうして日が過ぎ、週が過ぎ、月日が流れ…気がつきましたか？

この期間、神が語ったという記述は一切ないのです。

この時のノアの気持ちはどんなだったでしょう。

前には神のことばを聞いたのに、今は、嵐の中で箱舟は揺られ、家族も「次は何が起こるのか？」と思ったことでしょう。

しかし、過ぎ去る月日の中、神がノアに語ったとは聖書に書いてありません。

神からのことばがないまま 190 日が過ぎました。

実際のところ、ノアは 377 日間、神の声を聞いていないのです。沈黙。

彼は神のことばを聞いて救いの船に乗り込みましたが、今ははっきりした証拠も、何の指針も、光もないまま、ただそこにいました。

今夜この話をしたのは、この中にも同じ状況の人がきつといると思うから。

あなたも神のことばを聞きました。377 日前かもしれません。

「来て、乗り込みなさい！」

神は具体的に指示し、導き、何らかの形ではっきりと現れ、あなたは「主よ、従います」

そして、聞いたことばを信じてその通りに行き、神に従った。

みことばを通して為すべきことを知り、それを行った。

なのに今は、「なぜ神は何も言ってくれないんだ？」と思っているでしょう。

「もう、疲れてしまった…行き詰って…荒海に漂っている…」

皆さんに伝えたい。大事なことです。

ポイントを外さないように、よく聞いて下さい。

「神がもっと頻繁に語りかけてくれたら良いのに」と誰もが思うでしょう。

「特定のことに、具体的に示してくれたら良いのに」と。

みんなが、主の声をもっとはっきりと、常に聞いていたいと思っていますよね。

確かに、主の声が聞こえる時もあります。

でも、今は波に揺られて、「この先、どうなるんだろう…」

神は、“お喋りな饒舌家”ではありません。

ある人たちのように、絶えず喋り続けるということはありません。

あなたにも私にも、特定の指示に関して、個人的に語り続けることはないのです。

私たちが望むほど頻繁に、かつ、こと細かな、具体的な指導はしません。

神はお喋りではない。

私も不安になって、「主よ、私は以前、確かにあなたの声を聞きましたよ。

なのに、今はなぜ何も語って下さらないのですか？ もう、どうでもいいのですか？」と思うことがあります。

勿論、神が共にいて下さることも、私を思って下さっていることも分かっています。

頭では、それが真実であることも全部分かっているのです。

だけど、感情的になって不安で、「主よ、どこにいるんですか？」とってしまう。

そうして分かったことは、「私が不安になっている時、神は不安ではない。それが私をもっと不安にする」ということ。

私は、「主よ! どうしよう!?!」「あなたは何を望んでいるのか?」「どっちに進めばいい?」とすぐ不安になってしまうけど、主は全然心配してなくて、そのことが私を更に不安にさせる。

「どうして神はもっと頻繁に、具体的に語ってくれないのか」という不安、心配。

皆さん、神は薄情で何とも思っていないのではありません。

それには重大な理由があるのです。

私たちを不安や恐れから守ってくれる、もっと大きな重要な核心。

ローマ 5 章。新約聖書のマタイ、マルコ、ヨハネ、使徒の働きの次がローマ書。

ここは、とても大きな影響力を持つ、重要で素晴らしい章です。

**こうして、私たちは信仰によって義と認められたので (ローマ 5:1)**

“義と認められる”とは、“まるで、決して罪を犯さなかったようだ”という意味です。

救いや栄光の義を、どうやって喜び楽しむのでしょうか? それは、信仰によって。

神が「行った」と言われたことを信じることによって。

「行った」こととは?

「神は、私たちの罪のためにひとり子を世に遣わされた。死なせるために。

そして、彼は完全に代価を支払われた。それによって、私たちは義とされた。」

**こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、神のことばをただ信じたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。(ローマ 5:1)**

**このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいます。(ローマ 5:2)**

身分や資格が義とされているだけでなく、継続していつでもずっと、神に近づくことができる。

どうやって? 信仰によって。

信仰によって義と認められ、信仰によって神に近づく。

そして 3 節。ここをマークしておいて下さい。

**それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。(ローマ 5:3)**

つづく

生きている人間は、なぜ不平を言い続けるのか。自分自身の罪のゆえにか。

自分たちの道を尋ね調べて、主のみもとに立ち返ろう。

自分たちの心を、両手とともに、天におられる神に向けて上げよう。(哀歌 3:39-41)